

第4回保育士未来セミナー」レポート

2025 年 6 月 14 日、東京都新宿区にある「りとるぱんぷきんず」にて、第4回目の保育者を目指す高校生支援イベントを開催しました。

このセミナーでは「保育園で保育を学ぶ」をコンセプトに

○専門職としての保育者の仕事の魅力

○保育者の雇用環境

○社会における保育士という仕事の重要性

を様々なテーマ設定でお伝えしていきたいと考えております。

テーマ: 保育園は子どもが会う「初めての社会」

絵本は保育そのもの。「保育現場での絵本の活かし方」

会場には高校生・大学生や実際に保育にかかわる大人までが参加しました。現場の保育士や園長によるリアルな声を通じて、保育士の仕事の魅力、絵本を日常の保育にどのように活かしているか具体的に紹介。参加者も一緒に絵本に親しみ笑顔が溢れる機会となりました。

第 1 部 保育園は子どもが会う「初めての社会」

第 1 部では、社会福祉法人清香会 理事長・大江佳子さんが登壇。保育士の給与や待遇、仕事の安定性、園の選び方、そして AI 時代における保育士という仕事の将来性について語られました。

保育士は「人を育てる仕事」であり、AI には代替できない価値ある職業であると強調。

また、処遇については国を挙げて改善されていることや都道府県ごとに補助金等がつくので極端に低いものではないこと、社会福祉法人系の園は景気の変動を受けにくく比較的変動が少ない安定性のある職種であると説明がありました。

職場選びで見るべきポイントとしては、園長のビジョンや職場の雰囲気、スタッフの活気、衛生管理、キャリア支援の体制などが紹介されました。何よりも現場に足を運んで空気感を感じて相性をみてほしいとのことでした。



。「保育という仕事の人は人に育てられないと人にならない。

特に幼児期という人としてのベースを作る時期は、最も大事で、人は欠かせない。」

「いつまでも生き生きとして笑顔でいられる職業です。子どもたちからエネルギーをもらえます。楽しいことばかりではないよ、大変なこともいっぱいあるけれど、やりがい、生きがいもあり、子どもと共にいろいろな経験をつくれることは何よりも財産になります。」
と、保育の仕事の大切さを伝えてくださいました。

第2部 絵本は保育そのもの「保育現場での絵本の活かし方」

第2部では、
社会福祉法人清香会 千駄ヶ谷りとるばんぷきんず 主任保育士・赤塚里奈さん、
社会福祉法人あさかたんぽぽ会 第二あさかたんぽぽこども園 園長で絵本専門士でもある齊藤千尋さん、そしてモデレーターとして、日本テレビサステナビリティ事務局 絵本専門士・杉上佐智枝さんが登壇。絵本が日常に溶け込む保育のあり方や、絵本が育む子どもの力について、豊富な事例とともに紹介されました。



赤塚里奈さん(社会福祉法人清香会 千駄ヶ谷りとるぱんぶきんず 主任保育士)



【保育園の特徴】

清香会では「新しい保育の創造」を理念とし、子どもたちの自発性・自主性を尊重しています。園内には緑豊かなインナーガーデンがあり、「千駄ヶ谷温泉」と名付けた足湯イベントも開催されるなど、子どもたちが五感で楽しめる環境が整っています。

【保育士を目指したきっかけ】

0歳の頃から保育園に通い、小さい子のお世話が好きだったことから、卒園アルバムには「保育士になりたい」と書いていたという赤塚さん。妹の誕生をきっかけにさらにその思いを強くし、専門大学へと進学、保育士への道を歩みました。

【保育士のやりがい】

1年目に乳児クラスを担当した際、初めてハイハイしたり、歩いたり、自分の名前を呼んでくれたりした瞬間に深い感動を覚え、子どもの成長を間近に見守れることにやりがいを感じていると語りました。

【絵本を使った日々の保育】

モンテッソーリ教育を取り入れ、本物に近い絵や質感の絵本を選び、好奇心や社会性、文字への興味を自然に育んでいます。背景を壁際にして集中しやすい環境を整えたり、子どもの目線に合った絵本棚、季節に合った絵本のセレクト、家庭への貸し出しなど、絵本が日常の一部となるよう工夫しています。



齊藤千尋さん

(社会福祉法人あさかたんぽぽ会第二あさかたんぽぽこども園 園長・絵本専門士)



【保育園の特徴】

齊藤さんの園では、1歳から5歳までが同じ空間で過ごし、異年齢の子どもたちが自然なかかわりの中で育ち合う環境が特徴です。年上の子が年下の子に自然に配慮し、小さな先生のような存在として成長する姿が日常的に見られます。

【保育士を目指したきっかけ】

高校時代は本が好きで司書を目指していましたが、人間観察が趣味であったことや、親子のふれあいを見ているうちに子どもに関わる仕事に興味を持ち、大学卒業後に保育士資格を取得して転身したというユニークな経歴の持ち主です。

【保育士のやりがい】

子どもの日々の変化と発見が楽しく、同じ毎日是一日としてないこと、そして毎年たくさんの感動があることが、保育士としての大きな喜びです。

【絵本を使った日々の保育】

園の保育の柱に絵本を据え、読み聞かせに力を入れています。各保育室には絵本棚を設置し、子どもが絵本に自然と親しめるよう工夫されています。年上の子が年下の子に読んであげたり、子ども自身が絵本を模してオリジナルのストーリーを語る姿もあり、絵本が心の栄養として根付いています。



モデレーター

杉上 佐智枝(すぎうえ さちえ)さん(日本テレビサステナビリティ事務局 絵本専門士)



日本テレビ在籍。アナウンサーとして仕事をしたのち、第二子出産後に、社会に恩返しできることを考えて第4期の絵本専門士の資格を取得。絵本を使った活動を幅広く展開している。



最後に、それぞれの先生と杉上さんから手遊びと読み聞かせの実演も行われました。

斉藤さんは「おふくさんのてるてるぼうず」、

赤塚さんは「くだもの」、

杉上さんは飛び入りゲストの歌って踊る男性保育士・小島先生といっしょに、

「えとえとがっせん」

の臨場感あふれる読み聞かせで会場は大いに盛り上がりました。





保育士それぞれの個性や専門性が光るセミナーとなり、参加者からは「保育の現場がイメージできた」「やってみたい気持ちが強まった」など、前向きな感想が多数寄せられました。

・参加者の感想

絵本についてのお話が特に印象に残りました。これまで絵本についてあまり考えたことがありませんでしたが、今日のお話を通して、子供が育つ上で想像力や社会性を育む大切なものだということが分かりました。また、実際に読み聞かせをして頂いたり、保育園のエピソードを聞くことができて良かったです！（高校2年生女子）

保育士のお金関係のことや実際に子どもとの関わりを動画などで見せていただいたこと。（高校2年生男子）

大江先生のお話し、絵本の読み聞かせや手遊びが印象的でした。本日のセミナーで学んだこと、伺ったことを活かせればと思いました。（管理栄養士）

保育士は、人としての重要なベースを作る大切な仕事だと言う事（高校2年生女子）
就職先の保育園のを見つけるポイントを知る機会はありませんため、見るポイントを知ることができて良かったです。（高校2年生女子）

絵本が子どもたちに与える影響、研修に行く時の心構えです。（高校2年生女子）
保育士の仕事について疑問に思っていたことを知ることが出来ました。また、絵本は想像力社会性を学び、文字への興味を持つことができて改めて大切なものだと言われました。（高校2年生女子）

各園の絵本の取り組みの方法、大切にしているところ等。（保育園関係者女子）

最初の大江先生のお話で、保育士の給与に関する話などを具体的に聞くことができて良かったです。絵本という視点から保育をみるのが初めてだったのでとても面白かったです。(高校2年生女子)

絵本の読み聞かせが特に印象に残っています！現役の保育士さんや絵本の資格を持っている方の読み聞かせを聞くことが出来てとても学びになりました。(高校2年生女子)
保育士の魅力について(高校3年生男子)

次回予告

2025年8月23日(土)、世田谷区の風の丘めぐみ保育園にて「こどもとつくるライフストーリー」をテーマに次回セミナーを開催予定です。